



「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します

2018 年 6 月 25 日発行 通巻 84 号

コースマーケティング研究会

KOBE 東 ヒトとオモイの交差点

お願いします♡

寄附型
自動販売機



まちづくりスポット神戸



生きがい活動ステーション

アート&ソーシャル
アートサーカス

東灘区民センター小ホール

2017 年度のふりかえり、そして 2018 年度の展望

設立 20 周年の翌年にあたる 2017 年度は、CS 神戸の「これから」に歩みを進める一年となりました。長めだったミッションを『「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します』とコンパクトな表記にまとめました。

KOBE TARTAN

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します

その理念のもと、22 のプロジェクトを遂行しました。

特に力を入れた人材養成事業では、新規登録者 930 名、講座数 148、受講人数 3395 名、立ち上げ団体が 64、新規活動者が 743 名という成果も生まれました。その他の主だった活動については、上部の活動写真や次ページ以降の活動報告をご参照ください。また、認定 NPO 法人の更新の年を迎え、多くの会員・寄付者の支えを実感した 1 年でもありました。

そして、2018 年度は新たに 3 つの重点目標を掲げスタートしています。

ひとつ目が「NPO 法 20 年検証事業」です。2018 年は NPO 法が施行されて 20 年という節目の年となります。この 20 年間でできたこと・できなかったことを明らかにし、市民公益活動の未来を考えるフォーラムを、地元の間支援組織の協力を得ながら県内 3 ヶ所で開催します。

ふたつ目が「企業との連携」です。昨年度立ち上げた「コースマーケティング研究会」を中心に、異なるセクター同士が相乗効果を生みながら、地域課題の解決に寄与できるよう、いくつかのプロジェクトを具現化させます。

みつ目が「CS 神戸の戦略的広報のあり方研究」です。①何を目的に、②誰をターゲットに、③どんな情報を、④どんな手段で届けるのかを検討し、情報基盤の整備と広報ツールの見直しを行います。

2018 年度も引き続き応援いただければ幸いです。多くの皆さまとともに活動できることを楽しみにしています！

2018 年度理事会・総会報告

～ 2018 年度 理事会・総会を開催しました ～

2018 年度通常総会が 5 月 27 日（日）午前 10 時 15 分から 12 時 30 分まで、CS 神戸事務所において開催されました。今年度から新しい正会員 3 名を加えた 19 のうち、18 名（うち 4 名が書面）の参加、陪席としてスタッフ 17 名、計 35 名が出席しました。審議の結果、第 1 号議案（2017 年度事業報告および決算）、第 2 号議案（2018 年度事業計画および予算）、第 3 号議案（役員変更および正会員の加入について）、第 4 号議案（定款の変更について）が可決・承認されました。

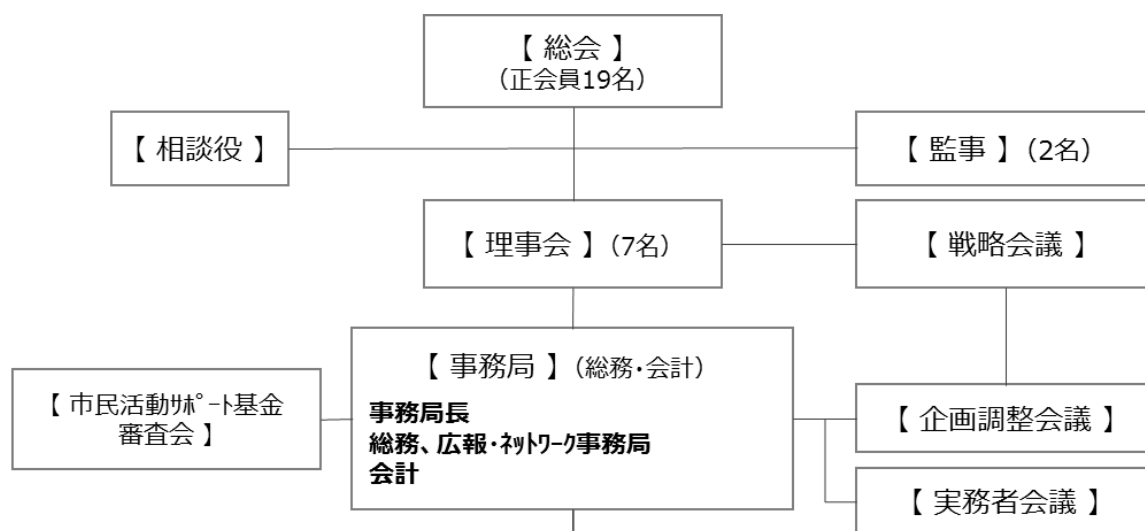
2018 年度は、1 ページ目に記載した重点目標に加え、「シビックセンター」に関する調査研究事業、CS 神戸で実施している数多くの研修等の体系化、ガバナンスの強化などにも取り組みます。

また、総会に先立って 2018 年度第 1 回理事会を同日午前 9 時 30 分から 10 時 00 分まで開催し、理事 7 名全員が出席、監事 1 名が陪席し、総会に提案する諸議案を審議して決議しました。総会における報告につきましては、3 ページ以降をご覧ください。（長井）



新正会員の挨拶
(中央 3 名、左から尾山氏、池田氏、青山氏)

【2018 年度（平成 30 年度）組織図】



<スタッフ構成>

- 常勤・準常勤
10 人
(男性 3 人、女性 7 人)
- 非常勤・臨時雇用
23 人
(男性 17 人、女性 6 人)
- ボランティア
約 190 人

	市民活動支援部										地域活動事業部			
	【中間支援事業】								【人材養成事業】		【コミュニティ支援事業】			
プロジェクト名	① 生きがいしごとサポートセンター神戸東	② 神戸市 NPO 設立・運営相談窓口	③ コミュニティ・ビジネスインターシッ	④ 市民活動サポート基金	⑤ シビックセンター準備	⑥ 企業連携・コーズマーケティング研究会	⑦ 各種ネットワーク事務局	⑧ 介護サービス情報の外部評価・公表調査	⑨ 社会貢献塾・CB 実践講座	⑩ 居場所立ち上げ・運営支援	⑪ 東灘区民センター小ホール	⑫ JR 住吉駅前駐輪場	⑬ まちづくりスポット神戸	⑭ 生きがい活動ステーション

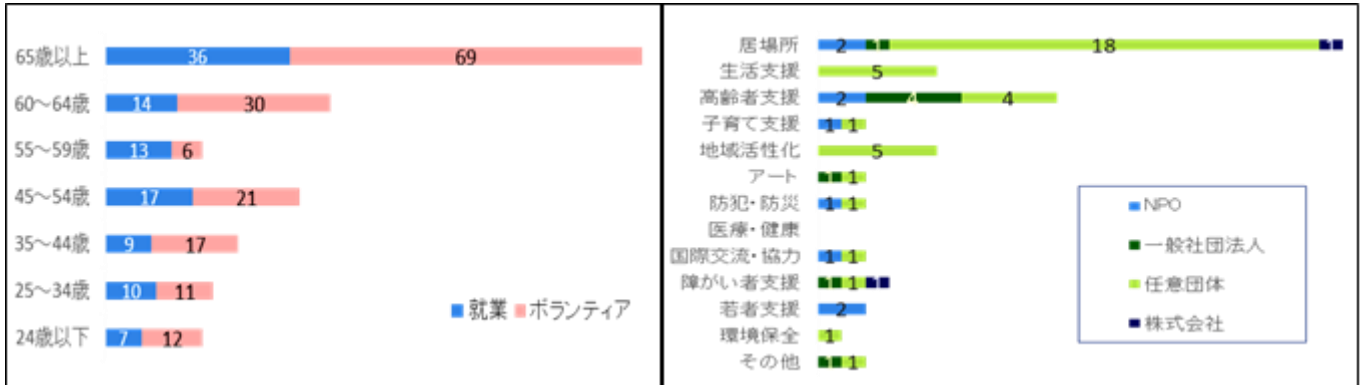
2017 年度事業報告

～ 地域の福祉とつながりを広げてきました ～

市民活動支援部 ～ 相談・講座・助成を通じて、市民の活動を支援します ～

✓ 生きがいごととサポートセンター神戸東/NPO 設立・運営相談窓口

昨年は 2,618 名の方と面談しました。就業では 65 歳以上の相談者が多かったことが特徴的でした。外通路に求人やボランティアの情報を掲示したことにより、事務所に入りやすくなったこと、そして、目的のある方の相談が増えたことで相談時間の短縮も図れました。起業相談においては、各プロジェクトと連携して相談及び運営のフォローを行うことができました。



【 就業成立者数 (106 名) 】

【 起業成立数 58 団体 (うち拡充 2 団体) 】

また、助成金申請や NPO の作り方などの講座を通して、継続のためには何が必要かということを考える機会をつくり、グループを組織に、ボランティア活動を事業にと、ステップアップを図りました。(人羅垂矢子)

✓ 市民活動サポート基金

草の根の市民活動を支援する助成金として、計 6 団体に総額 801,000 円を助成しました。地域でニーズが高まっている居場所や生活支援を行う団体への助成が目立ちました。新たな取り組みとして、助成団体による報告会に賛助会員の皆さんもご参加いただきました。それにより新たなネットワークができたり、助成団体がエールをもらうことができて好評でした。(山村弘美)

【2017 年度 助成団体】

団体名	事業名	助成金額
ゲストハウス萬家	地域密着型ゲストハウス運営	250,000円
認定NPO法人フードバンク関西	事務所兼倉庫移転	250,000円
アテンドクルーあずさ	アテンドクルー事業	70,000円
さくらうたごえクラブ	うたごえ喫茶	50,000円
もくきんどう	もくよう食堂	87,000円
サンデーカフェの会	サンデーカフェ事業	94,000円
合計		801,000円



助成団体による報告会の様子

✓ シビックエコノミーセンター研究会



シビックデザイン研究会の柴牟田伸子氏の講演

高齢者、子育て世代、社会になじめない人々が、就労機会を得ながら心地良く住めるような地域をつくるため、法人やグループが既存の社会の枠組みにとらわれずに一緒に活動できるような「シビックエコノミーセンター」を企画しました。

昨年度は、その普及啓蒙活動として紫牟田氏の講演会＆レゴブロックを使ったワークショップを開催し、神戸市/兵庫県の関係部署、神戸市を中心に活動する地域団体、関連企業から 40 名が参加しました。今後も「シビックエコノミーセンター」の理解者を少しずつ増やし、調査研究を続けていきます。(白井一彦)



✓ 介護サービス情報の外部評価・公表調査

CS 神戸の介護サービス第三者評価は、グループホームの利用者（市民）の視点から丁寧な内容と簡潔な報告をおこなっており、好評を得ています。2017 年度は評価員の減少もあって前年度より受注件数を減らしました。しかし、数年ぶりに兵庫県評価員養成研修が開催され、CS 神戸から 3 名が受講・修了しました。この 3 名が新戦力として加わるため、2018 年度は前年度に倍する評価実績を目標としています。

（松元隆平）



✓ コーズマーケティング研究会



第一号機が大和リース(株)のご協力で、同社の運営する商業施設プレスポ舞子坂にて利用開始となりました。その後有限会社神輝興産、商船港運株式会社の 2 社に設置して頂き、2017 年度は計 3 台の導入ができました。

（新庄達也）

優れた活動をしながらも、規模や人的資源の不足により助成金などの対象になりにくい地元の小規模な市民団体を支援すべく、2017 年 6 月からガイドー・ドリコ(株)、日本政策金融公庫、兵庫県立大学、九州大学とともに、「コーズ・マーケティング研究会」を立ち上げ、さまざまな組織との連携の仕組みを検討してきました。

コーズ・マーケティング（Cause Related Marketing）とは、コーズ（社会的大義）を顧客に訴求することで、社会貢献と利益の向上を追求するマーケティングの手法であり、このほどガイドー・ドリコ（株）との協働で、自販機の設置が実現しました。

その結果、寄付型自販機「KOBE 発 ヒトとオモイの交差点」の



人材養成事業 ～ 地域のために自ら活動する人々を生み出しています ～

✓ 社会貢献塾・CB 実践講座



社会貢献塾第 6 期生

「社会貢献塾」は昨年度に引き続いて、地域活動における基礎的理解と活動マッチングやグループ作りを目的として開講し、22 名が受講しました。

介護相談ができる地域の居場所や空き家となっていた実家での居場所、高齢者の交流事業など 3 名が起業し、障がい児の放課後デイの送迎や日本語ボランティア、高齢者の居場所支援など 7 名の方がボランティア活動を始められました。

「CB 講座」は今年度から土曜開催を実施したことで 30～40

代の受講生の参加もあり、20 名(公開講座のみ 6 名、連続受講 14 名)が受講しました。開催日を平日から変更したことで若者を含めた新たな層の獲得ができ、5 名が起業準備に入っています。（伊藤愛奈）

✓ 居場所立ち上げ・運営支援

福祉医療機構からの助成を得て、地域の居場所の立ち上げ支援および運営支援を行いました。8 月に「第 2 回居場所サミット」を開催、203 名の参加を得て、新潟市の先進事例に学びました。また、「神戸市居場所データ集 Vol2」として発行、316 ヶ所を掲載することができました（昨年度比 42 ヶ所増）。新たな試みとしては東灘区・灘区を対象とした「秋の居場所ラリー」を実施、26 ヶ所の居場所にご協力いただき、延べ 192 名の参加を得ました。従来のサミットの実行委員団体に加え、ネスレ日本株式会社や（一社）神戸すまいまちづくり公社、兵庫県立大学政策科学研究所 NPO 研究連携センターと協働し展開できたことも大きな成果となりました。

（飛田敦子）

✓ 生活支援・介護予防サポーター研修

過去 3 年度の実績をもとに、神戸市の「生活支援・介護予防サポーター養成研修事業」に応募し、全市（3ブロック9区）で受託しました。今年度は広報に課題があったこともあり、受講申込者は全体で 92 人と定員の 51%に留まりました。

しかし、受講生からの相談に（区社協とも連携して）きめ細かく対応し、フォローアップ研修も実施した結果、修了生の 90%（56 人）が活動者になるという成果をおさめました。（松元隆平）



第 5 期東部修了生

✓ 生活支援・介護予防サポーター研修 グループリーダー研修

New



シミュレーションワーク発表の様子

活動者となった受講生達が地域活動をより安定的に継続していくために、グループリーダーの養成をおこなう神戸市主催「生活支援・介護予防サポーター養成研修 グループリーダー研修」を受託しました。過去のサポーター養成研修修了生を主な対象として、リーダーとしてのスキルを学びあうシミュレーションワークを全 3 回の講座でおこないました。研修終了後、修了生 3 名が世話役となり、リーダー同士が主体的に学びあう場として自主研究会が立ち上がりました。

（長井明子）



地域活動事業部 ～ 地域密着型の事業を展開しています ～

✓ JR 住吉駅前駐輪場



障がい者対応研修（ワークショップ）

指定管理第 4 期(2017.4～2020.3)の 1 年目の重点活動として、スタッフ 15 名の半数を占めるようになった新人の能力アップを目指し、ワークショップ形式の研修を 2 回（障がい者対応、情報セキュリティ）実施しました。また、慣習化していた勤務シフト体制や就業規則の見直しに取り組み職場環境を改善しました。

地域連携活動として、ひょうご認知症サポート店舗登録を行い情報収集・広報を行うと共に、「住吉南部あんしんすこやかセンター」と相談して SOS ネットへの参加等などを検討しています。また、地域連携の新しい形として近隣店舗や地域団体を巻き込んだ駅前クリーンキャンペーンで障がい者施設、駅前店舗、婦人会

、自治会、東部建設事務所、JR 住吉駅、東灘区まちづくり課、環境局地域環境課など、民間の垣根を越えた参加者 55 名を集め、その後の参加者有志での月一回の駅前清掃活動の継続へと繋げました。（柳井俊郎）



駅前クリーンキャンペーン

✓ 東灘区民センター小ホール

指定管理者として第 4 期（指定期間 2014 年～2018 年）の 4 年目として芸術文化と生活文化を提供する場として、様々な市民の方々に情報発信を行いました。

地域文化活性化事業は、こどもたちから大人までを対象に 3 事業を行い、こどもたちの身体表現の場を提供しました。3 月に開催した「東灘名所めぐり」では、昔の東灘のことを通して多彩なプログラムで地域を知る・見る（写真、映像、講演）、聴く（落語で東灘名所めぐり）を昨年に引き続き開催し、約 200 名以上の方に自分の住んでいる町を知って頂きました。

市民一人ひとりが持つ文化的な知識や技能を発掘する区民カレッジは昨年に引き続き開催している 4 講座に加えて、新しく 2 講座を開催し、計 68 回実施しました。

自主事業は地域の課題である防災に関する知識を伝える「イザ！カエルキャラバン in ひがしなだ」ではおもちゃの交換をしながら 10 の防災体験プログラムを体験して頂き、地域の防災力向上を目指しました。（兵頭修也）



✓ まちづくりスポット神戸



開設から 4 年目を迎えたまちスポ神戸では、来館者が 21,864 人（対前年比 127%）と増え、特に夕方の時間帯においては、男性来館者数が前年比 120%と、男性の活動が活発になってきました。登録団体は、64 団体（対前年比 + 7 団体）となり、それに伴い相談件数も増加し、地域活動の「入口」としての役割が担えるようになってきました。

近隣自治会や子ども会、大学生と共に実行委員会を構成し実施した、「備える・考える ぼうさいスーパーワークショップ」では、1,689 人もの参加があり、地域との関係性を築く機会となりました。

また、登録団体の活動熟成に向けた支援策を模索するためのコミュニティ・ビジネス（CB）アンケート調査の実施や、まちスポ神戸独自の事業創出に向けた

CB 研究会に取り組み、まちの景観づくり活動『グリーンクルー』事業が新たに立ち上がり、2018 年度から本格実施します。

（向山良子）

✓ 生きがい活動ステーション

2014 年 6 月に六甲道勤労市民センターに開設され、3 年目を迎えました。

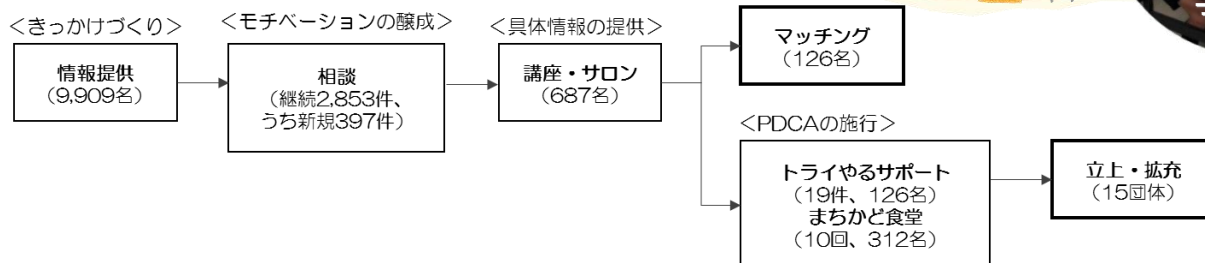
2017 年度の情報提供者は 9,909 人、相談件数は 2,853 件で、いずれも昨年度を上回りました。講座・サロンは 83 回開催し、813 人が参加。気軽に参加できるサロン等で入口を広めたことで、結果的にボランティアマッチングは 126 件、立ち上げは 15 グループとなりました。

また、昨年度の居場所コーディネーター養成講座修了生の有志が立ち上げた「まちかど食堂」は年間 10 回開催し、児童館帰りの親子や高齢のご夫婦等 312 名が参加しました。

今年度の居場所講座には 21 名が参加し、居場所の立上げを予定している方や既に立ち上げている方が参加され、より実践的な講座になりました。（伊藤愛奈）

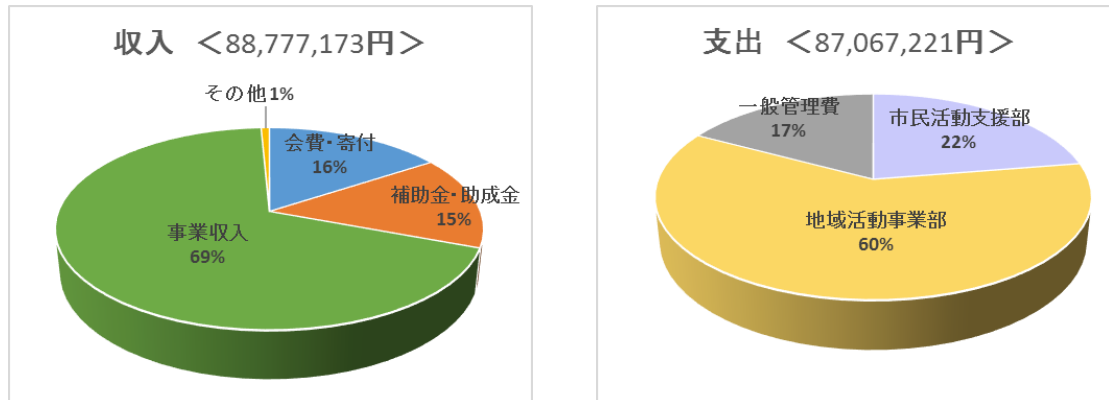


【生きがい活動ステーションのサポートの流れ】



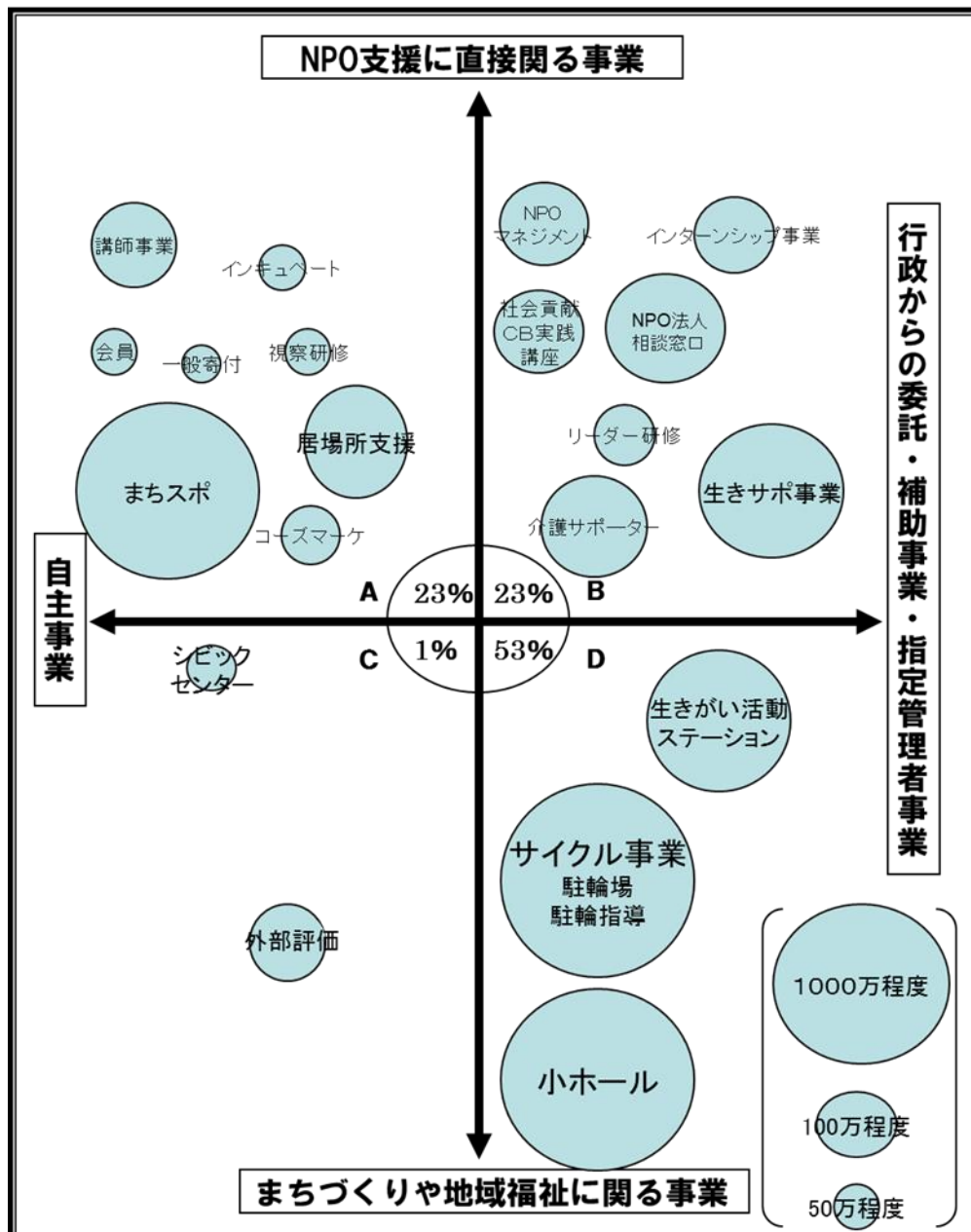
2017 年度会計報告

2017 年度決算は経常収益 88,777,173 円、経常費用 87,067,221 円、当期正味財産増減額 1,709,952 円となりました。
詳細は以下の通りです。



CS神戸における事業構成 2017年度決算

総額: 8877万円



新人紹介

～ 3 名のスタッフが仲間入りしました ～

多田 和子【居場所立ち上げ・運営支援】

仕事をさせていただいて 10 ヶ月経ちますが、まだまだ、わからないことだらけです。蟻のような歩みではありますが、いろんな情報に触れながらこれから自分に何ができるかを模索中です。

岡本 紀雄【法人事務局】

阪神淡路大震災後に「東灘小学校」でボランティア活動に初めて関わり、中越や能登半島地震後のボラセン運営にも携わりました。生業でも、能登半島や鳥取県の大山で、ツーリズムによる地域活性化の手伝いをしてきました。これまでの経験を活かして、少しでもお役にできればうれしい限りです。

山本 しのぶ【生きがい活動ステーション】

作業療法士や地域の団体での活動の経験も生かして、地域のみなさんの生きがいやつながりをサポートしていけたらと思います。



1 杯 100 円～ で
美味しいコーヒーや紅茶が
飲めます。お越しの際に
ぜひ♪お試しください。



※本部事務所（東灘区）

会員 寄付 お礼

～ 応援いただき、ありがとうございます！ ～

(2018 年 1 月 1 日～5 月 31 日)

【会員】

神田 典治、端 信行、更谷 令治、特定非営利活動法人薫風、株式会社ロックフィールド、飛田 敦子、藤本 傑士、山本 周三、岡本 仁宏、村上 義弘、森田 正純、福嶋 正次、浜田 宏樹、西田 幸夫、原 祥隆、遠田 豊成、増金 祐次、森 功、北川 浩二、四宮 一夫、尾山 宗久、藁科 秀雄、上田 弘、井上 隆文、川島 悦子、稲田 薫、立田 英雄、朴木 佳緒留、大谷 敏行、川島 龍一、中村 順子、山本 好克、兵頭 修也、平野 久美、檜垣 忠、長岡 聖美、大黒 洋一、梶原 靖子、池田 拓也、藤原 和男、足立 勝、星野 裕志、佐藤 友美子、當間 克雄、小室 邦夫、青山 ゆみこ、尾花 弘教、ヒューマンスキル研究所、金芳 外城雄、長谷川 京子（敬称略・順不同）

【寄付】

定免 久美子、更谷 令治、嶋田 征彦、小室 邦夫、西垣 千春、佐藤 博史、尾花 弘教、有限会社神輝興産、商船港運株式会社、株式会社シカタ、中村 順子、飛田 敦子、人羅 亜矢子（敬称略・順不同）

2018 度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】

個人会費：3,000 円／年

団体会費：10,000 円／年

【振込先】

名義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替 00950-2-144205



認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸（CS 神戸）

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310／FAX：078-841-0312／E-MAIL：office@cskobe.com

2018 年 6 月 25 日発行 通巻 84 号（発行人：中村順子 編集人：長井明子）

編集後記 最近は「地域活動」といっても、ごみ拾いなどカジュアルなものから、イベント開催や生活支援などガッツリ型までたくさんありますね。自宅のある地域では活動できていないのですが、まずは家の前の掃除から始めようかな、と思っています。（N）